

保護者のみなさまへ

吹田市立藤白台小学校
校長 中田 美紀

令和5年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「令和5年度全国学力・学習状況調査」を実施し、8月下旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語科と算数科に限られております。また、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことを踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えております。

対象となった6年生には、よりきめ細かな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導方法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にしていただきますようお願いいたします。

1. 教科に関する調査の分析

●国語

《概要》

- ・話すこと・聞くこと、書くこと、読むことともに思考力・判断力・表現力は全国値を上回っている。
- ・知識・技能は全国値をやや上回っている。
- ・読むことの資料から読み取ることは、全国値で下回っている。
- ・すべての問題において、無回答率があり、特に、書くことは後半につれて増えている。

《各領域における成果と課題》

言葉の特徴や使い方に関する事項

- 漢字や敬語の適切な使い方などは全国値を上回る。
- △日常よく使われる敬語の理解の問題では、無回答率が高い。

情報の扱い方に関する事項

- 原因と結果など情報の関係についての理解や情報の関係づけの仕方については高い正答率であった。
- △しかし、無回答率も全国値よりも上回っている。

話すこと・聞くこと

- 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることは全国値をやや上回る。
- △目的や意図に応じ、話の内容をとらえ、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることについて無回答率が全国値よりもやや上回っている。

書くこと

- 図やグラフから必要な情報を正確に読み取り、考えを指定文字数でまとめることは全国値とほぼ同じである。
- △しかし、条件を全部満たして書くことは全国も本校も正答率が低い。

読むこと

- 文章の空欄に当てはまる内容に適したものを選ぶことは全国値を上回っている。目的に応じて図表や文章を結びつけて必要な情報を見つけることが全国値を上回っている。
- △資料をもとに、目的を意識して中心となる語や文を見つけて要約することが、唯一、全国値よりも下回った。

《今後の指導改善点》

情報の扱い方や言葉の特徴、使い方に関する事項

- ・授業の中では言葉を適切に用いたり提示されている情報の読み取りや活用の仕方について考えたりする学習活動を行います。また、示された文章や資料には、様々な視点があることを理解し、活用することで自分の考えを広げたりまとめたりすることの機会を増やしていきます。
- ・国語科に限らず、普段の他の授業でも、互いの立場や考えを尊重し、自分の考えを伝えたり必要なことを質問したりする力をさらに培っていきます。
- ・ことわざや慣用句などの語彙を増やしながらか文章を書く活動を他教科とも連動して行います。

話す・聞く・書く・読む

・「話す、聞く、書く、読む」では、特に「目的を意識する、中心となる文や語に着目する」を日々の学習で意識して、取り組むことができるように行います。国語科の学習をはじめ、他の教科でも、「要約したり、文章と図表等を結び付けたりして考えをまとめる」「図表やグラフ等を用いて」子供たちの工夫して伝える力をさらに育てていきます。

●算数

《概要》

- ・平均正答率が、全ての領域において全国・大阪府値を上回っており、本校の取り組みの成果が出ている。
- ・「選択式」「短答式」「記述式」といった回答形式に関わらず、正答率は、全国値を上回っている。
- ・「記述式」が全国値と比較して正答率が高かった。しかし、無回答率も全国値より高い。

《各領域における成果と課題》

数と計算

○四則計算の立式・計算の仕方を理解し、与えられた式の計算は全国値を上回っている。

図形

- 三角形や四角形の性質や構成の仕方について基本的な図形の性質については、全国値を上回っておりおおむね理解できている。
- △台形の意味や性質についての理解は全国値とほぼ同じであるが、大阪府値よりやや下回っている。唯一この問題だけである。
- △正三角形の面積の大きさを判断した理由の記述の正答率が低い。
- △2つのグラフから読み取った違いを言葉や数を用いて記述する問題で無回答率が高い。

変化と関係

○百分率や割合に関する事項は概ね理解できていて全国値を上回っている。

データの活用

- グラフの読み取りなど、データの活用領域に関する事項は理解できている。
- 目的に応じて、複数のグラフから適切なグラフを選択し、データの特徴や傾向を捉え、必要な情報を読み取ることができている。しかし、無回答率も見られる。

《今後の指導改善点》

- ・算数の授業ではこれまでと同様に、疑問や課題を全体共有することで「考えたい」という思いを引き出してきました。そして課題に対する子供たちの多様な考え方を大切にして「伝えたい」という思いを引き出し、今後も、意欲的に学ぶ学習を進めていきます。また、伝え合い考える授業の中で、記述力も並行して養います。
- ・算数で付けた力を毎日の生活場面や社会科・理科、総合的な学習でも発揮できるようにしていきます。生活場面の課題を解決するために、試行錯誤しながら自ら情報収集し、それらを表やグラフに表す機会を設けます。
- ・図形の知識・技能を振り返る機会をつくり、正確に図形の知識を学ぶとともに、その知識を活用して考える力、伝える力を育てて多角的にとらえる力を育みます。

2. 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向

【規範意識・自己有用感等について】

- 「自分にはよいところがある」に当てはまる児童は全国値を上回っている。
- 「先生はあなたのよいところを認めてくれている」に当てはまる児童は全国値を上回っている。
- 「将来の夢や目標を持っている」に当てはまる児童は全国値を上回っている。
- △「人が困っているときは、進んで助けていますか」に当てはまると答えた児童は全国値とほぼ同じである。しかし、「当てはまらない」と答えている児童は全国値よりも高い。
- △「人の役に立つ人間になりたい」「友だち関係に満足していますか」に当てはまる児童は全国値をやや下回っている。
- △「いじめは、どんな理由があってもいけない」に当てはまる児童は全国値より低い。むしろ「どちらかという」と当てはまる児童は全国値を上回っている。

○日々の教育活動の中で、様々な課題にチャレンジする機会を設定してきた成果であると感じています。委員会活動や係り・当番活動において、児童がよくできていることを取り上げ、他の児童に広めるとともに、よりよく改善する方法を考えさせることを通して、今後も自己有用感を感じさせる機会を充実させます。

○「いじめはどんな理由があってもいけない」の項目で「当てはまる」ではなく「どちらかという」と当てはまるを選んだ児童が多かったことが少し気になります。いじめについては、重大な人権侵害であるということを認識し、担任をはじめ、教職員全体で子供たちを見守り、いじめを絶対に許さない学校風土をつくっていきます。

○他の項目でも「どちらかという」と当てはまるを選ぶ児童が多く、子供に自信を持たせられる教育活動をさらに推進していきます。

○人の役に立つことや友達関係に満足している項目が全国値をやや下回っていることから、進んで人とかかわることへの不安を取り除き、円満な人間関係を築ける機会を充実させます。

【基本的な生活習慣等について】

- 「朝食をとる」「同じ時刻に就寝・起床している」に当てはまる児童は全国値を上回っている。

○ご家庭の協力のおかげで、朝ご飯を食べている割合は今年度も高くなっています。日々、子供たちが元気に登校して活動できるようにご支援くださり本当にありがとうございます。学校は、保健だよりや給食だより等も活用しながら、早寝早起き・朝ごはんなど、健康的な生活の大切さを今後も伝えていきます。ご家庭におきましても学校の配付物等を活用していただきながら、子供たちが元気に活動できる環境づくりに引き続きご協力をお願いします。

【地域や社会に関わる活動の状況等について】

- 「外国の人と仲良くなりたい」「外国の人に日本にすんでいる地域のことを知ってほしい」と感じている児童は全国値を上回っている。

- 「住んでいる地域をより良くするために何かしたい」「今住んでいる地域の行事に参加していますか」と回答した児童は全国値とほぼ同じである。

- △「今住んでいる地域の行事に参加している」と回答して児童は6割に届かなかった。

○コロナ禍の影響もあり、参加することができなかった地域行事が少しずつ復活してきています。そんな中、6年生が地域において活動したい気持ちがあることはうれしい結果でした。中でも、地域や社会をよくしたいと思いを巡らせることができる子供たちが育っていることは、学校と一緒に地域の方々を温かく子供たちを見守っていただいたおかげであると感じます。これからも、地域行事などのお知らせの文書を配付する際には、行事の内容も知らせるなどして、子供たちが自分たちの地域に関心を持てるようにしていきます。

【学習習慣・教科の学習について】

- 「家で自分で計画を立てて勉強している」の回答率は高く、全国値を上回っている。
- 「学校の授業以外に1日あたり3時間以上勉強している（学習塾や家庭教師の先生の時間も含む）」児童は全国値を上回っている。
- 新聞をほぼ毎日読んでいる児童の割合は、全国値を上回っている。
- 「読書の時間・家庭にある本の冊数・図書館の使用頻度」は全国値を上回っている。
- 「国語の勉強は大切・将来役に立つ」と回答した児童は全国値を上回っている。
- 「算数の勉強が大切」と「算数の授業が好き・わかる」はどちらも全国値を上回っていた。
- △「国語の勉強が好き」「国語の授業がよくわかる」と回答した児童はどちらも全国値を上回っているが、5割に届かなかった。
- △「学校の授業以外に1日あたり勉強している時間が30分より少ない」児童の割合は全国値とほぼ同じで1割程度いる。
- △「一日当たりの読書の時間が10分以内・全くしない」の児童も4割程度いる。

○学力の基本は日々の学習の積み重ねです。しかし、学習習慣の2極化が結果として表れていると考察します。家庭学習の基本である宿題をはじめとして、家庭学習の推進を進め、計画的に学習に取り組む態度を培っていきます。ご家庭におきましても学校の配付物などを活用していただきながら、お子さまへのお声かけを引き続き、お願いします。

○多くの児童が読書に取り組んでいることが読み取れました。しかし、一方で読書時間が10分以内・全くしないと回答していることから、読書の習慣を定着させるためにも学校内で本に触れる機会を十分に確保します。

○学習について、肯定的な回答が多くあったことは、子供たちが主体的、意欲的に学ぶために授業研究を続けてきた本校にとって、非常に成果を感じる結果であります。今後もより一層の授業改善に取り組み、国語や算数の学習が将来に役立つということの実感が伴うように、日常生活と関わる身近な事象を取り上げたり、日常生活と関わる問題や課題を設定したりしていきます。

【主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況】

- 「学級の友だちと話し合う活動を通して考えを深めたり広げたりすることができている」「授業での学びをほかの学習で生かしている」に当てはまると回答した児童は全国値を上回っている。
- 「自分の考えを発表する機会では、自分の考えをうまく伝えるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していた」「課題解決に向けて自分から取り組んでいた」「各教科で学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていた」では全国値を上回っている。
- 「5年生までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器活用が毎日、または週3日以上」が全国値を上回っている。「学校の授業時間以外に、月曜日から金曜日、1日あたりどのくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を勉強のために使っていますか」は「30分以上、1時間より少ないから30分より少ない」が全国値を上回っている。
- △「総合的な学習で自分で課題を立てて情報を集め、整理し、発表する学習に取り組んでいる」という項目では全国値をやや下回っている。

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善については、今年度も成果が出ている結果でした。本校の研究テーマである「主体的に考え、伝え合う学びの愉しさを見出せる子どもを育てる」という目標のもと、他者と考えを共有し、議論していく過程を大切に授業づくりを今後も進めていきます。
- 総合的な学習では、子供たちの興味関心に基づいて、各教科や道徳、特別活動の時間とも関連付けながら問題解決や探究活動に取り組む力をさらに培っていきます。
- 一人一台タブレットの導入に伴い、授業場面でも様々な活用を行ってきました。子供たちが自分の学び方にあった使い方ができるようになってきた成果だと感じます。デジタルシティズンシップ教育の取り組みも3年目になります。タブレットの良さと問題点の両方を理解させ、良き使い手となるよう児童の育成に継続して取り組んでいきます。タブレットが学習道具であることを理解し、ルールを守って活用する子供を育てていくことをめざす指導を継続していきます。